

## 海洋ゴミからウミガメを守る！

### ウミガメ生息環境保全活動 in 口永良部島

屋久島国立公園パークボランティアの会

鹿児島県

#### ■活動の目的

北半球一のアカウミガメ産卵地である屋久島の永田いなか浜では、当団体やNPO法人、地元集落民など定期的に海岸漂着ゴミの清掃活動を行っているが、その対岸約12km先に位置する口永良部島（くちのえらぶじま）では人口が100人に満たない上に2015年6月29に口永良部島の新岳が爆発的噴火をし、全島避難指示が出されるなど生活再建や普及復興作業に追われて、海岸清掃には手が回らない状況である。

また、両島とも産業廃棄物処理場が無いので処分費のみならず搬出費（口永良部島から屋久島へ、屋久島から鹿児島県へ）も必要となるため多額の費用を要し、島民主体による実施は非常に困難である。

そこで、近年問題になっているウミガメの海洋プラスチックによる誤飲や事故を防ぐ事を主目的として、屋久島から口永良部島へ船で渡り継続的に海岸清掃を行う。



永田いなか浜清掃作業のようす



黒潮海流との位置関係

## ■実施場所

活動の舞台は鹿児島県佐多岬から南へ約60kmの距離にある屋久島の北西約12kmにある面積35.8平方km、周囲49.7kmの人口約100名の小さな火山島、口永良部島。幾つもの火山による幾度もの噴火活動によって成り立った独特な自然景観をもち、天然記念物であるエラブオオコウモリが生息し、プランクトンが豊富な黒潮がもたらす魚影豊富な海など貴重な生態系をもっているため、口永良部島は全島が国立公園地域に指定されている。

(屋久島は島の約42%が国立公園地域)

この口永良部島の中で今回清掃活動を行うのが「西之浜（にしのはま）」である。本島は火山島であるが故に海岸線は急峻な崖が多く、砂浜は島に2か所しかない。そのうちの一つは2015年の噴火によって利用不可能となったため、現在では島内唯一の砂浜となった。西之浜はウミガメの上陸が確認されているほか、天然記念物のムラサキオカヤドカリも生息している。また、島民の8割以上が暮らす本村地区からのアクセスもよく湾状になっているため地元では海水浴場としても使われており、子供たちを含めた島民の憩いの場である。



いくつもの火山噴火によって形成されている



清掃活動場所の位置関係

## ■活動までの流れ

まず清掃活動を行うにあたって西之浜の現状について環境省屋久島自然保護官事務所の協力を得て本村区長の貴船氏からの聞き取りを行ってもらったほか、現地出張の際に調査したゴミの堆積状況についての説明を受けた。

その結果、ここ数年の台風や大時化の際、潮の流れ方によって浜に押し寄せた大量の海洋ゴミが堆積を繰り返し、2 m以上の層になっている事が分かった。10名前後の作業ではまなならない事もあり、先の貴船区長にも相談をし、本村集落総出で行う環境省マリンワーカー事業（環境省が行う国立・国定公園の海域適正管理強化事業）の清掃活動に協力する形で当会も活動を行う事とした。しかし島への定期船が海上時化の為に運休する事や、悪天候によりマリンワーカー事業活動日に参加出来ない事もあり得るため、その際は当会独自で行う予定であったが幸い2019年度・2020年度共に共同活動を行う事が出来た。

海洋ゴミの処理に関しては屋久島には処理業者が無く、鹿児島へ屋久島の運送会社を通じて送る事となるので、処理費用のみならず口永良部島から屋久島への輸送料および屋久島から鹿児島への輸送料も発生し、多額の費用となる。そのため屋久島の運送会社へ処理費用と輸送料の見積書を依頼し、目安とした。

見積内容は以下の通りである。

|            |                                                                                                                               |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 運送会社       | 屋久島海陸運輸株式会社                                                                                                                   |
| 処理業者       | 株式会社ヤクヤクリサイクル<br>産業廃棄物中間処理業 鹿児島市 許可番号 8224047923 号<br>産業廃棄物収集運搬業 鹿児島県 許可番号 4601047923 号                                       |
| 空フレコン      | 1,100 円（税込）                                                                                                                   |
| 輸送料        | 7,128 円（税込）（口→鹿／1 t フレコンバッグ 1 袋）：2019 年<br>7,623 円（税込）（口→鹿／1 t フレコンバッグ 1 袋）：2020 年                                            |
| 産廃処分料      | 16,500 円（税込／混載／1 t フレコンバッグ 1 袋）：2019 年<br>17,600 円（税込／混載／1 t フレコンバッグ 1 袋）：2020 年<br>27,500 円（税込／処理困難物／1 t フレコンバッグ 1 袋）：2019 年 |
| タイヤ<br>処分料 | 普通タイヤ 1,100 円（税込／1 本）<br>中型車タイヤ 1,650 円（税込／1 本）<br>大型車タイヤ 2,200 円（税込／1 本）                                                     |
| 処分費計       | 混載：1 袋 24,728 円（税込）：2019 年<br>混載：1 袋 26,323 円（税込）：2020 年<br>処理困難物：1 袋 35,728 円（税込）：2019 年                                     |

## ■活動実績

活動実績は以下の通りである。

**活動日** : 2019年10月18日(金) 10:00~12:00

**参加人数** : 12名(屋久島国立公園パークボランティアの会 12名)

**活動概要** : 翌日の合同作業のためにフレコンバッグには詰まず、漁網やロープなどの大型漂着物を、収集しやすい場所へ集積する作業を行った。漁網やロープは人力では運べないほど重く大きなものが多い為、ロップカッターを用いて裁断しながら収集を行った。

**活動日** : 2019年10月19日(土) 8:00~11:45

**参加人数** : 65名(島民53名、屋久島国立公園パークボランティアの会 12名)

**収集量** : 1tフレコンバッグ39袋(うち、当会にて処分5袋)

**活動概要** : 島民と合同で清掃活動を行った。小さめのゴミは屋久島町のゴミ袋を用いて分別しながら拾い、ゴミ袋に入りきらないものとは別にフレコンバッグに入れた。ゴミは軽トラックにフレコンバッグを載せてから詰め、浜と港をピストン輸送した。軽トラックは当会からは2台、島民からは4台の計6台で輸送作業にあたった。

作業前は砂浜も見えないほどの状況であったが、作業後は美しい砂浜が姿を現した。しかしながら軽く小さなマイクロプラスチックは手では拾いきれない為、手で拾えるゴミが大方片付いた際は、フルイを用いるなどしてマイクロプラスチックを効果的に拾う必要がある等の課題も見えた。

**活動日** : 2020年10月16日(金) 10:30~12:00

**参加人数** : 12名(屋久島国立公園パークボランティアの会 12名)

**収集量** : 1tフレコンバッグ8袋

**活動概要** : 翌日の合同作業のために発泡スチロールや大きな漁網、ロープなど大型漂着物の収集を行った。漁網やロープは大半が埋まっており、人力では運べないほど重く大きなものが多い為、ロップカッターを用いて裁断しながら収集を行った。

**活動日** : 2020年10月17日(土) 8:00~13:00

**参加人数** : 70名(島民58名、屋久島国立公園パークボランティアの会 12名)

**収集量** : 1tフレコンバッグ28袋(うち、当会にて3袋処分)

**活動概要** : 前回同様、島民と合同で朝から清掃活動を行った。雨の予報であったが小雨模様だったため実施となったが、途中一時的に横殴りの雨が降りしきる場面もあった。ゴミは屋久島町のゴミ袋を用いて分別しながら拾い、ゴミ袋に入りきらないものは直接フレコンバッグに入れた。ゴミの輸送は前回同様に軽トラックにフレコンバッグを載せてから詰め込み、浜と港をピストンする方法が行われた。輸送は島民の軽トラック4台で作業にあたったが、路面状況の悪化から途中から車が坂を登れなくなる事態となった為、チェーンを巻いた車1台のみが輸送を行った。地元業者が爪付の油圧ショベルを持ち込み、詰込み等の作業にあたった。

■活動写真



ゴミで埋め尽くされた西之浜の状況（2019. 10. 18）



材質・大小様々な海洋ゴミが堆積している（2019. 10. 18）

■活動写真



島民総出での参加となった（2019. 10. 19）



島の子どもたちのほとんどが参加をしていた（2019. 10. 19）

■活動写真



海洋ゴミの山に埋まった太いロープ (2020. 10. 16)



漁網やロープは集めやすくするためロープカッターを用いる (2019. 10. 19)

■活動写真



清掃作業のようす (2019. 10. 19)



清掃作業のようす (2020. 10. 17)

■活動写真



集めた漁網やロープ (2019. 10. 18)



細かいゴミは分別して拾った (2019. 10. 19)

■活動写真



軽トラックにゴミを積んでピストン輸送を繰り返す（2020. 10. 16）



油圧ショベルを使っでの積み込み作業（2020. 10. 17）

■活動写真



作業前 (2019. 10. 19)



作業後 美しい風景が戻った (2019. 10. 19)

■活動写真



作業前（2019. 10. 19）



作業後 ゴミの山が減った（2020. 10. 17）

■活動写真



作業前 (2019. 10. 19)



作業後 きれいな砂浜が現れた (2019. 10. 19)

■活動写真



港に集められたフレコンバッグ (2019. 10. 19)



ゴミだらけの中で逞しく生きていたオカヤドカリ (2019. 10. 19)

■活動写真



清掃に参加した口永良部島島民と大会メンバー（2019. 10. 19）



清掃に参加した口永良部島島民と大会メンバー（2020. 10. 17）